

教育だより

平成20年度 三芳町教育委員会研究委嘱

教育委員会では、毎年、学校・グループ・個人に係る研究を委嘱し、学校教育の充実に努めています。今月号では、今年度研究委嘱校5校より、各学校での研究状況等について報告します。

問い合わせ 学校教育課(内線521-522)



→三芳町教育委員会委嘱研究発表会

「まなびあいの教育」を推進する国語科の指導

三芳小学校

日常的に書くことに親しみ「伝えあう力」を育成

国語科において、適切な表現力と正しい理解力は表裏一体である。書くことを中心に授業を行うことで、話すこと、聞くこと、読むことも相乗効果で高まると考えた。児童の実態把握のために全国学習状況調査、教育に関する3つの達成目標の検証テスト、入間地区

学ぶ喜びを味わわせる指導法の研究

上富小学校

自分の考えを表し、伝える力の向上を目指して

本校では、18年度からの研究を基に、その実践として、次のようなことに取り組んだ。

①チャレンジタイム(毎週木曜日・反復学習の取組)

平成17年度からの継続した取組により、算数の計算力、国語の漢字力が大きく向上している。学力向上部で、この時間に使用するプリントを作成し、学校全体で同じ領域に力を入れて指導を行うことで、児童へスパイラルな指導を行うことができ、大きな成果を上げることができた。と考える。

一方、今年度は、国語科において、「聞くテスト」を取り入れ、児童がメモを取りながら、話している内容を確実に聞き取ることができるようになる。と考える。国語は勿論、算数科を始めとするすべての学習の基礎になると考える。

②国語・算数毎時間の5分間復習

国語学力調査を活用し、学級担任から見た児童の実態の把握に努める。

次に、国語科の教育課程を見直して授業に取り組むこととした。書くことへの意欲づけから短い作文づくりと推敲の繰り返しを積み重ねていくこととした。

さらに、学校生活全体からも、国語力をはぐくむために、日常の日記の指導や話し合い活動、読書活動の充実を図っていく。

本年度は、全員が各ブロックで授業研究を行うとともに、日々の教育活動に生かせるように、ブロックでの実践研究を重視することとした。

本校の「まなびあいの教育」は、児童の生涯学習につながる不易のものである。昨年度の研究により、学校に「学び」の意識が浸透している。児童一人一人に学習意欲が芽生えてきている。授業に向かう



「人間の教育」「人間づくり」の確立を目指す

竹間沢小学校

指導体系化と「コミュニケーション」の

今までの研究成果と取り組みを生かし、『伝え合う力』を養う調査研究を進めようと考えた。そして、今までの研究の積み上げを体系化することで、本校の学校教育目標「やさしく、かしく、たくましく」を具現化する手立てを明確にすることができると考えたのである。

○言語的スキルの獲得、向上、場の設定(総合的な学習の時間・国語・各教科等)

・伝え合う力を養う指導法「気持ちの伝わる話し方」「気持ちのいい聞き方」等、発表や発信に役立つスキルを授業の中で養う。各教科で工夫し実践する。

・基礎的学力の定着を図り、自分の気持ちや考えを伝え合う力と意欲を高める。(国語タイム・すくすく国語、算数タイム・すくすく算数)

・家庭・地域と連携を図り、「ふるさとを愛し、ふるさとで学ぶ」

気持ちの持ち方や学習態度が数段進歩している現実が各学級に見られている。

本年度から、全職員が一丸となって組織の一員の自覚を持って、国語科を研究の中心にすえて教育実践を積み重ねたところ、児童の「学び」の質の向上が顕著である。

本研究が「豊かな知性と感性をはぐくむ三芳教育」につながる生涯を通して学び続ける児童の育成につながるものと確信している。

確かな読みの力を育てる国語科の指導

藤久保小学校

「やさしく かしく つよがり」の達成をめざして

本校では児童の実態を踏まえ国語科の研究に取り組むこととしたが、今年1年間で完結する研究で

児童の育成を推進する。

○社会的スキルの獲得、向上、場の設定(特別活動)

・よりよい人間関係を築くための社会的スキル、主体的で自主的な活動の場を工夫し、身につけた伝え合うためのスキルを生かす。縦割り班・伝言板の活用・環境を作る力、人間関係づくりのスキルを身につけさせ、伝え合うための環境を作る。(ふれあいタイム・教育相談的手法・道徳教育)

・体験活動、他者、社会、自然、環境とのかかわる中で、これらと共に生きる自分への自信を持つ。

【伝え合う基盤としての学級観】
・学級とは「子どもたちの好きな人間関係や子どもたちと教師との信頼関係が確立し、学級の雰囲気も温かく、子どもたちが安心して自分の力を発揮できるような場」である。

自他を大切に、夢や目標を持ち、その実現に向けて努力する生徒の育成

三芳中学校

本校では、学校教育目標から生徒個々の行動目標までを連鎖した『夢実現プラン』を作成した。

はななく数年間を通して研究に取り組んでいくこととした。

そのことが結果として、児童一人一人に「確かな国語科の力をつける」ことの近道と考えた。

本年度の研究では、学校としての仮説等は定めず、かわりに「深い教材研究による授業実践」を柱に「I児童の実態を明確に把握する力。II1時間の授業を構築する力。III発問・板書・ワークシートを工夫する力」等を教師一人一人が身につけて国語科の指導力向上を図ることとした。

本年度の研究主題を具現化するために行った3つの取組は次の通りである。

- ①児童の実態に即した授業改善
- ②先進的な取組を行っている学校への視察及び報告による研修
- ③全学年による公開授業・全教員での指導案づくり

これらの取り組みを通し、学校として共通の取り組みが生まれたら、各発達の段階に応じた指導方法が明確になった。

また、全学年の指導案に係ることで来年度にどの学年を担当しても、本年度の研究を深められることができるであろうと考える。

生徒達は自己の夢や目標の実現に向け、自己の夢実現プランを作成し、『格好いい中学生』を目指している。

実践では、総合的な学習の時間を通し、生徒たちは指導者・ボランティア・施設や事業所等の多くの人と接し、自分が如何に多くの人に愛されていることを体感した。そして、三芳町をより深く知り、本校の目指す生徒像である『格好いい中学生』と成長している。体験活動によって得たこと、考えたことや課題を決め追究することなど自ら学び考えることで、いつの日か生徒たちも60年前の村人の願いに応えた親や地域の方のように、町・日本の担い手となることを確信している。

この実践は、一人ひとりの教師の指導と組織としての指導や支援を繰り返しながら『生徒が何を考えたか』『何をしたか』『どう変わったか』を、日常的に話し合い実践に学び、実践に生かす研究である。この教育実践を継続することが、地域や保護者の方の思いや願いを叶えるとともに、生徒の夢や目標の達成ができると信じ、日々研鑽に励んでいる。

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00

3月の予定

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

- 〈中央図書館〉
- ぐりぐらタイム
(絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)
第1・3金曜日 11:00～11:15 1・2歳～
11:20～11:40 3歳～
第2・4火曜日 16:00～16:30 4～8歳
 - とじょかん・くらぶ一会員制一
(講師の読み聞かせと司書のブックトーク)
10:20～12:00 1～6年生 合同で終了式
 - かにかにこそこそ (第3水曜日)
一人対象
10:00～12:00
(昔話などを覚えて語る練習会)
 - 竹間沢分館
ぐりぐらタイム
(絵本・紙芝居など) 第4火曜日
11:00～11:30 1～4歳
※保護者同伴をお願いします
 - スイミーおはなし会
(絵本・紙芝居・ブックトーク)
16:00～16:30 4歳～小学生



【児童書】「リボン」
草野たき著
ポプラ社 二〇〇七年十一月発行
請求記号 913ク
卒業式に先輩の制服リボンを貰う伝統のある卓球部女子。波風立てない主義の亜樹は、不人気な先輩に「リボンを」と頼んであげたのに。十五才の心の変化をリアルに描く。



【児童書】「みんなともだち」(ピーマン村の絵本たち)
中川ひろたか文 村上康成絵
童心社一九九八年一月発行
請求記号 UEび報
「みんないっしょにうたをうたった。みんないっしょにえをかいた」。園での生活を振り返る卒園式の子どもの「みんなともだち ずっとともだち」という言葉が心に残る絵本。



【一般書】「卒業」
重松清著
新潮社二〇〇六年十二月刊行
請求記号 B913シゲ
ある日突然「僕」を訪ねてきたのは、自殺した親友のひとり娘だった。彼女の手首にはリストカットの傷跡が…。表題作ほか、それぞれの「卒業」に臨む4組の家族の物語。



【児童書】「ちえちゃんの卒業式」
星川ひろ子写真・文
小学館二〇〇〇年十月発行
請求記号 TEブル
わずか七一五グラムで生まれ、肢体不自由ながら頑張って小学校に通い続けたちえちゃんの六年間を回想する写真絵本。様々な場面の写真と少女自身の素直な声が胸を打つ。

図書館の本棚より「卒業の本」

健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。
問い合わせ スポーツ振興課(総合体育館内)
☎258-0311

今日は、『運動と睡眠』の関係についてご紹介します。
《運動と骨》

1日の理想睡眠時間は7～8時間とされています。ということは、人生の1/3は睡眠です。それだけ睡眠は大切であり、生きていく上で欠かせないものなのです。
運動との関係ですが、どんな軽度の運動でも、少なからず筋肉が損傷を受けます。損傷を受けた筋肉が修復しないと損傷の積み重ねで身体が壊れてしまいます。修復がいつ起きるのかといえますと睡眠中なのです。睡眠中は筋肉が最大限に休まった状態で疲労物質が高速で処理されています。また、骨量、筋量の維持や新しい細胞を作ってくれる成長ホルモンも睡眠中に多く分泌されます。人間は寝ないとどの様な状態になりやすくなるのでしょうか?→不安、イライラ、集中力低下、肥満、高血圧、糖尿病、うつ…とまだまだ出てきます。
運動効果を出すためには運動する事と同じくらい睡眠が必要になってくるようです。『睡眠学習』は笑い話ですが、『睡眠発育』は現実に起きているようです。

《少人数制レッスン》



少人数制レッスン(定員15名)で一人ひとりにより細やかな指導が可能となりました。
料金: ¥4000/8回 予約方法: 電話または直接来館
予約開始日: 3/6(金) 午前10:00～
①レッスン名②日程③時間④担当者⑤会場
【1】①親子ピクス②4 / 7.14.21.28.5 / 12.19.26
6/2③10:30～11:30④戸井⑤武道場
※対象年齢1～3歳
【2】①癒しのヨガ②4 / 7.14.21.28.5 / 12.19.26
6/2③11:15～12:15④大塚⑤多目的室
【3】①太極拳②4 / 7.14.21.28.5 / 12.19.26
6/2③14:15～15:15④北⑤武道場
【4】①らくらく健康体操②4 / 2.9.16.23.30
5/14.21.28③11:15～12:15④溝越⑤武道場



教育トピックス

卒業に向かって…
校長先生との楽しい給食会

3月に入ると、どの学校でも卒業に向けての雰囲気が高まってきました。そのような中で、竹間沢小学校では、2月の中旬から「校長先生との給食会」が催されています。各クラスから3、4名の児童が、4時間目終了のチャイムを待ちかねたかのように、給食を持って校長室に集まってきました。そして、校長先生を囲み家族団らんを思わせるような昼食が始まります。
大好きな給食を食べながらの話題の中心は、6年間の思い出や中学校での部活動のこと、10年後の自分の未来像です。竹間沢小学校では林間学校や修学旅行前にも校長先生との給食会が行われています。今回は3回目ということで、児童たちの表情に緊張感はなく、和やかに会話が弾んでいきます。
給食会を終え、児童たちは「笑いがたくさんあって楽しかった」「普段の友達との会話とは違う話題に触れられて楽しかった」「家族で食事しているみたいで、お父さん(校長先生)がいつも以上に大きく見えた」などと感想を話していました。
大好きな給食を食べながらの話題の中心は、6年間の思い出や中学校での部活動のこと、10年後の自分の未来像です。竹間沢小学校では林間学校や修学旅行前にも校長先生との給食会が行われています。今回は3回目ということで、児童たちの表情に緊張感はなく、和やかに会話が弾んでいきます。
給食会を終え、児童たちは「笑いがたくさんあって楽しかった」「普段の友達との会話とは違う話題に触れられて楽しかった」「家族で食事しているみたいで、お父さん(校長先生)がいつも以上に大きく見えた」などと感想を話していました。
町では小学校の卒業式が3月24日に行われます。各小学校の卒業生のみなさんは、卒業までの残り少ない日々を元気に過ごし、楽しい思い出を胸に刻み、新しい世界へと歩んでください。



三芳の文化財

第22回 三芳(三)の名産品
～三芳村誕生と地名～

三芳は平成21年4月1日に生誕120年を迎える。三芳町は明治22年に(一八八九)三芳村として誕生しました。前号では、明治20年3月以来ゆれ動き、ようやく上富・北永井・藤久保・竹間沢の4村が合併するに至る経緯を紹介しました。今月号では三芳という合併村名の由来を紹介しましょう。
三芳という地名は、平安時代の在原業平の和歌物語「伊勢物語」第十段「入間の郡みよし野の里」に因るものです。
第十段は「むかし、おとこ、むさしのくにまでまどひありけり」で始まる。主人公の業平はあてどなく武蔵国まで旅をしてきて、「みよしの里」に住む娘に恋をする。娘の父は別の結婚を考慮反対、しかし藤原一族の出身の母は娘を高貴な身分の業平と結婚させたいと必死、娘の気持ちを和歌に託し業平に贈る。
みよし野の たのむ(田の画)の雁もひたぶるに君が方こそ
寄る(夜)となくなる
(文意) みよし野の田の面に鳴く雁のように、娘はあなたにひたすら心寄せ泣いています。
わが方に寄るとなくなる 三芳野のたのむ(田の画)の雁をいつか忘れぬ
(文意) 私に心寄せ泣くという、田の面の雁ではないが、お嬢さまのことは生涯忘れはしないと、返歌をする。都から遠く離れた東国のみよし野の里に来て、業平は女性にもてた段階は結ぶ。
さて、合併が決まった上富・北永井・藤久保・竹間沢の四村は、この「伊勢物語」の「三芳野」を村名にしようと、入間郡役所に申請しました。ところが郡役所には、他に二村が新村名として「三芳野」を申請していました。困った入間郡役所は、最初の申請村に「三芳野村」(現坂戸市内)を許可、二番目の申請村に「三芳村」(現三芳町)、三番目に「芳野村」(現在の川越市芳野)とすることで許可をしました。
現在、三芳野村も、芳野村も合併し、市町村名としては残っていません。唯一残るのが三芳町、120年の歴史を大切にしていきたいですね。
ところで、本当の「みよし野の里」は入間郡のどこにあったのでしょうか。
ここ、三芳町であった可能性は否定できません。

